

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑮

自由に日中活動を行うための環境作り ～身近なスマートフォンを使って～

訪問作業療法士からの電話相談を受け、同じチャンネルを見ているのはつまらないという本人の訴えと、指の動きだけで、起動から操作までできるようなものや方法があれば知りたいという本人と訪問 OT のニーズに対し、自宅へ訪問し検討いたしました。



ケースは 40 代の ALS の男性で、身体状況は、上肢は右の第 2 指、左の第 3 指、第 4 指の屈伸の動きは可能で手指機能は保たれてはいましたが、徐々に低下してきていました。下肢は比較的保たれていて、立位や歩行器での歩行は軽い支えの介助で可能でした。日中活動はパソコンを使い、インターネットやライン、写真の映像の作成などを行っていましたが、以前よりマウス操作が行いにくくなり、手の位置が変わってし

まうと元の位置に戻せなくなってきていました。検討していくにあたって身体状況进行评估し、まずはパソコンの操作方法を検討しました。マウスの操作は足での操作を提案し、問題なく行えるようになりました。

次に自宅で不用となっていたスマートフォンを利用する方法を提案し、外部スイッチでのスマートフォンの操作方法を検討しました。機器との接続はインターフェース変換装置を用い、スイッチはブラケーススイッチを選択し、日中座って過ごす椅子のアームレストに設置し、人差し指で操作することとしました。また Bluetooth 対応学習リモコンユニットを用い、テレビ、エアコン、ブルーレイ、ステレオなどの家電操作ができるように設定しました。その後訪問 OT と練習を開始し、操作が可能となり、日中の時間も楽しめるようになりました。



近年スマートフォンはとても身近な物となっており、障害のある方にとってのユニバーサル機能も充実してきています。特別な機器を使用しなくても、支援者がスマートフォンの機能を理解し、活用できるよう支援ができれば、充実した生活を実現する道具の一つとして期待できると思います。機器選定にあたっては、概念的に行うのではなく、身体の特徴に合わせて、しっかりとした評価に基づいて行う必要があります。リハビリテーション専門相談では、支援者の方と一緒に確認する過程を通じて、新たな気づきが生まれることがあります。地域でお困りの際には、お気軽にご相談ください。何かヒントが見つかるかもしれません。

(一木 愛子)